

種子繁殖型イチゴ品種「よつぼし」の全国展開に向けた省力栽培体系とICTによる生産者ネットワークの確立

【分野】	野菜・花き
【分類】	実証研究型
【研究代表機関】	三重県農業研究所（イチゴよつぼし研究コンソーシアム）
【参画研究機関】	岩手県農業研究センター、富山県農林水産総合技術センター園芸研究所、山口県農林総合技術センター、香川県農業試験場、三好アグリテック（株）、（株）花の海、（研）農研機構九州沖縄農業研究センター
（普及担当機関）	三重県中央農業改良普及センター、富山県農業技術課広域普及指導センター、山口県農林総合技術センター・柳井農林事務所、香川県農政水産部農業経営課農業革新支援グループ
（研究管理運営機関）	NPO法人東海地域生物系先端技術研究会
【研究・実証地区】	三重県松阪市・伊勢市、岩手県陸前高田市、富山県砺波市・富山市、山口県山口市・周防大島町・山陽小野田市、香川県綾川町・土庄町、山梨県北杜市、福岡県久留米市・筑紫野市

I 目指す地域戦略と研究の背景・課題

1. 地域戦略の概要

イチゴ種子繁殖型品種を活用して苗生産の分業化を図り、新しいイチゴ経営の方向性を示す。

2. 研究の背景・課題

イチゴ種子繁殖型品種「よつぼし」のセル苗を活用した栽培法を、各地域の高設栽培システムと組合せ、軽労・省力化栽培体系として確立する。また、その情報を全国の生産者と共有し、「よつぼし」の全国普及を進める。

II 研究の目標

- ・本圃直接定植法により育苗労力を90%削減
- ・苗生産の分業化により、果実生産と労力競合を回避し、収穫期間の延長を実証（12～7月）
- ・高設栽培システムに合う最適栽培法を確立し、各地域の収量を慣行栽培比114～160%に増収

III 研究計画の概要

1. 地域戦略に基づく「よつぼし」の省力栽培体系と生産者ネットワークの確立

- (1) 岩手県における省力栽培体系と生産者ネットワークの確立
閉鎖型高設栽培システムにおける「よつぼし」の省力栽培体系を確立する。
- (2) 富山県における省力栽培体系と生産者ネットワークの確立
冬季寡日照条件における「よつぼし」の省力栽培体系を確立する。
- (3) 三重県における省力栽培体系と生産者ネットワークの確立
簡易型高設栽培システムにおける「よつぼし」の省力栽培体系を確立する。
- (4) 山口県における省力栽培体系と生産者ネットワークの確立
多植栽培システム「スライドらくラック」における「よつぼし」の省力栽培体系を確立する。
- (5) 香川県における省力栽培体系と生産者ネットワークの確立
少量培地バック式養液栽培システムにおける「よつぼし」の省力栽培体系を確立する。
- (6) 都道府県域を超える情報共有システムの整備
研究成果の全国生産者への移転に向け、都道府県域を超える情報共有システムを構築する。

2. 「よつぼし」の種苗コスト低減技術の開発

- (1) 種子の最適発芽条件の解明
「よつぼし」の最適発芽条件を解明し、発芽促進方法を明らかにする。
- (2) コーティング種子を用いた播種栽培技術の開発
生産者が実施可能なコーティング種子を用いた播種栽培技術を開発する。
- (3) 実生苗発生ランナー活用技術の確立
実生苗から発生するランナーを活用した低コスト育苗技術を開発する。
- (4) 次世代苗生産システムにおけるセル苗生産の実証
次世代苗生産システムによるセル苗の高効率生産技術を確立する。

種子繁殖型イチゴ品種「よつぼし」の全国展開に向けた省力栽培体系とICTによる生産者ネットワークの確立

種子繁殖型品種を全国に普及し、イチゴ産業のイノベーションの実現を目指す。

研究シーズ

「最新農業技術・品種2016」採択



- ・ 栄養繁殖型品種と遜色ない優れた品質と収量
- ・ 種子から育つため、増殖効率が高く、病害虫がいない

種子繁殖型新品種「よつぼし」

実用化された日本で初めての種子繁殖型イチゴ

日本で初めてのセル苗流通が2016年から開始

中課題1: 地域戦略に基づく「よつぼし」の省力栽培体系と生産者ネットワークの確立

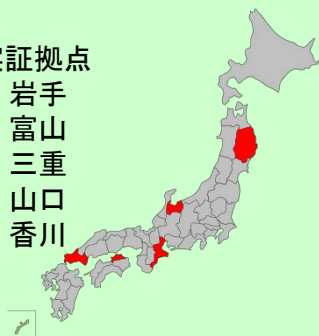
「よつぼし」の省力栽培法と高設栽培を組み合わせ「軽労・省力化栽培体系」を実証

目標：育苗労力90%削減・収穫期間12月～7月を実証。慣行対比114～160%の収量

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
従来品種	株保管			親株		増殖・育苗			定植		収穫
二次育苗					播種	購入苗鉢上	2次育苗		定植		収穫
本圃直接定植					播種			定植	花成誘導		収穫

5カ所の実証拠点

- 1- (1) 岩手
- 1- (2) 富山
- 1- (3) 三重
- 1- (4) 山口
- 1- (5) 香川



地域の実情に応じた栽培体系を確立普及組織により情報伝達・技術指導

本圃直接定植法: セル苗を本圃に直接定植。大幅な省力化を実現し、育苗施設不要に。

二次育苗法: セル苗を鉢上げして2か月育苗。慣行法に近くリスクが小さい。

情報の共有と集積



セル苗の本圃直接定植

1- (6) 都道府県域を超える情報共有システムの構築

インターネットを利用した双方向の情報の共有

種子繁殖型イチゴ研究会

全国普及へ

協力機関と共に

中課題2: 「よつぼし」の種苗コスト低減技術の開発

セル苗に加えて種子販売を開始 - 種苗コストを低減し、生産者負担を小さく、市場規模を大きく、種苗産業を育て「苗生産の分業化」を実現

2- (1)

最適発芽条件の
説明

発芽に適した基本条件を
説明

2- (2)

コーティング種子の
播種技術開発

微細種子播種技術の王道
安定した播種技術の確立

2- (3)

実生苗発生ラン
ナーの活用技術

手間掛かってもコスト大
幅削減、選択可能な技術
ラインナップの充実

2- (4)

次世代苗生産シ
ステムの検討

クリーン環境で苗生産
閉鎖型施設への適用